

## 2016年 グアム社員旅行

株式会社第一コンサルタンツ 右城 猛

### 1日目 5月19日(木) 高知からグアムへ

今年の社員旅行は、社員の希望でグアムに決まった。グアムは2000年に社員旅行、2012年に家族旅行をしており3度目になる。

第1班は社員34名と添乗員1名。最近は仕事に追われて疲労が蓄積していた。気分転換による疲労回復も期待して、家内同伴で参加した。



高知龍馬空港 11:35 分発 ANA1606 便で伊丹空港へ。リムジンバスで関西空港へ移動。19:00 発のデルタ航空 DL473 便でグアムへ。

旅行の行程を見ると、往路は関西空港で、復路は伊丹空港で搭乗までそれぞれ約4時間の待ち時間があった。時間を有効に活用するため、いつもの出張と同じようにパソコンを持参した。



宿泊したホテルはグアムプラザホテル。グアムではランクが低いが、繁華街の中心にありショッピングに便利なロケーションにある。JP ストアとホテルのロビーが繋がっており、DFS 免税店は目と鼻の先にある。

ただし、館内で Wi-Fi が無料で使える環境になっていない。また、日本人が多いホテルにも関わらずトイレはウォッシュレットになっていない。今時のホテルとしては珍しい。

### 2日目 5月20日(金) グアム観光その1



グアムプラザホテル7階の2701号室から眺めたタモン湾。茶色い建物は2012年に宿泊したアウトリガーグアムリゾート。その左手にはデュシタニ、ハイアットリージェンシー、ホリデイのリゾートホテルが見える。写真には写っていないが、アウトリガーの右側には2000年の社員旅行で泊まったリーフホテルがある。



最初の観光地はハガニア地区にあるアプガン砦。スペイン統治時代にスペイン軍がチャムロ族と戦うために作られたもの。



ハガニア地区のスペイン広場の裏にあるラッテストーン公園。ラッテストーンは、建物の基礎として珊瑚石で作られたもの。



公園にはダオの実がたくさん落ちていた。マカダミアナッツによく似ている。ガイドの説明では、食べると体が痺れるそうだ。魚を捕るのに使われているとのこと。



赤と白のブーゲンビリア。



スペイン広場に展示された砲台。



1個5ドルでココナツを売っていた。空けられた穴にストローを刺して吸うと、スポーツドリンクのような味のジュースが出てくる。渴いた喉には最高である。

ジュースを飲んだ後、ココナツの肉の部分の削いで醤油を付けて食べた。まるでマグロの刺身。日本酒の肴に最高だろう。



背後は聖母マリア大聖堂(ハガニア大聖堂バシリカ)。マリア像の髪の毛が今でも伸びているとか。



スペイン統治時代の野外音楽堂「キオスコ」。



博物館の前に展示されている二人乗りの日本軍の潜水艦。



1944年7月21日の朝、グアムを占拠していた日本軍を攻めるためアメリカ軍が上陸を開始したアサン海岸。

その海岸の太平洋戦争公園にはアメリカ軍の魚雷が展示されていた。



カタカナで書かれた国語の教科書。「ヤマモトサン ホンオ オアケクダサイ。ヤマモトサンガホンオアケマシタ。」「アナタワ ホンオ ヨミマシタカ。イーエ エオ ミマシタ。」と書かれている。

助詞に「オ」「ワ」が使われている。



太平洋戦争博物館。アメリカ軍のアサン上陸作戦によってグアムの日本軍を制圧した記録映画の上映や、当時の資料が展示されている。



恋人岬からの展望。背後はタモン湾。



タモンビーチ。背後の白い建物はホテルニッコーグアム。

2012年9月には、ビーチは海水浴客で溢れていたが、海水浴客の姿がなくひっそりとしていた。

以前には真っ黒い大きなナマコをたくさ見かけたが、水質が悪くなったのが原因でナマコが減っているようだ。

観光客には多く来て欲しいが、多く来れば海が汚れる。困った現象である。



グアム2日目の夜は、全員でフィッシュアイ・ポリネシアンディナーショーを楽しんだ。

タラバガニ、牛肉のステーキ、ムール貝などの料理をビュッフェ形式で食べながらポリネシア

ンショーを楽しんだ。

ここに来るのは3回目。来るたびに踊りが進化している。若い女性が腰を激しく振って踊るポリネシアダンス、火がついた棒を器用に操って踊るファイヤーダンスは見事である。

タモンビーチや繁華街には観光客が少ない。ここもガラガラと思いきや、会場は満席であった。このショーは地元グアムの新聞でNo.1に選ばれている。それだけに人気が高いのだろう。

### 3日目 5月21日(土) グアム観光その2

3日目はホテルを8時に出発。オプションツアー「YAMAS グルーっと一周」に参加した。



最初の観光地は、昨日の最後に見学したフィッシュアイマリンパーク海中展望塔。ここは日本の造船技術によって建造されたものである。



展望塔の窓の外でたくさん泳いでいるカラフルな熱帯魚を見ることができた。



餌付けをしているので、展望塔の周囲には熱帯魚がたくさん集まっていた。



海中展望塔に通じる栈橋の下では、ダイビング、シュノーケリング、シーウォークなどのマリンスポーツを楽しむ観光客がいた。



太平洋戦争跡公園「ガン・ポイント」。日本が統治していたグアムへ1944年7月21にアメリカ軍が上陸したポイントの1つ。

海に向かって備え付けた日本軍の砲台が残されていた。



グアムにはどこへ行ってもマンゴーの木がある。パブリックエリアであれば、誰でも自由にマンゴーを採っても良いので、現地の人にしてみれば市場で金を出してまで買う気はしないだろう。ただし、マンゴーの木が高いため採るのは大変である。

ガイドが長い棒で叩いてマンゴーの実を落としてくれた。



椰子の木もたくさん生えている。青と黄色のココナツかあるが、味は黄色い種類が良いようである。



セッティ湾展望台からの眺望。



タロフォフォの滝。ここにはケーブルカーで降りて行く。



密林はバナナの木や椰子の木がたくさん覆い茂っている。



横井庄一さんは、椰子の皮の繊維で洋服を作り、バナナやココナツを食べて 28 年間過ごしたようである。

ソレダッド砦に向かう途中で見かけた橋梁と水牛。この近くにマゼラン記念碑、F・Q サンチェス小学校がある。



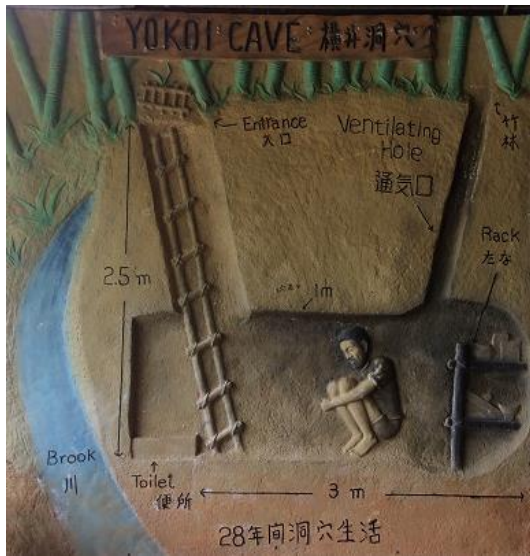
この先に横井さんが隠れていた洞穴がある。



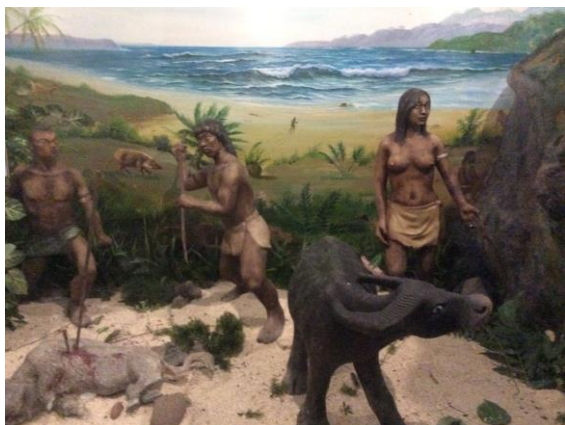
ソレダッド砦。背後はウマタック湾。



洞穴の入口。実際にはこの場所ではなく、これは再現した洞穴。2000年に来たときは梯子を伝って中に入り蚊に刺された。今は入れないように柵が設けられていた。



横井さんが洞穴で潜伏していた様子。



タロフォフォの滝の近くには「グアム歴史館」があり、歴史を分かり易くするために絵画にして展示されていた。

スペインの植民地になる前のグアム。原住民であるチャモロ人が狩猟をしながら暮らしていた。



1565年にスペインの植民地になり、キリスト教の宣教師がチャモロ人の伝統的な習慣や文化を厳しく禁止したため、1669年にスペイン・チャモロ戦争が起き、10万人いたチャモロ人が5000人に激減した。



1898年、米西戦争でアメリカがスペインに勝利し、パリ条約によりグアム島はフィリピンなどと共にアメリカ合衆国に割譲された。



1941年12月に太平洋戦争が勃発。日本海軍は真珠湾攻撃の5時間後にグアムへの航空攻撃を開始して占領。以後、日本統治が始められた。

スペイン統治時代と日本統治時代には、チャモロ人を奴隷としてこき使っている様子が描かれ、1944年8月に再びアメリカの統治になって平和

な生活を取り戻したということが描かれている。

「歴史はそのときの為政者によって決められる」ということを改めて知らされた。



日本人の南太平洋戦没慰霊記念公園。入り口に釈迦を本尊とした「我無山平和寺」があり、戦争の遺品や修学旅行の生徒によるたくさんの千羽鶴が陳列されていた。



公園内にスターフルーツの木があり、熟れかかった実をたくさん付けていた。実の断面が星の形をしているので、スターフルーツと呼ばれている。



ガイドが木によじ登ってスターフルーツを採ってくれた。



とてもジューシー。さっぱり味で美味しい。



グアム最後の夜は、オンワード ビーチ リゾートで BBQ を食べながらポリネシアンショーを楽しんだ。

ステージのバンド演奏者が突然私の名前を呼び、係の者が 66 の数字が入ったバースデーケーキを私の席に届けてくれた。

日本旅行の添乗員の加田氏の粋な計らいで、一日早い私の誕生日を会場の皆で祝っていただいた。このサプライズは嬉しかった。





腰を激しく振って踊るポリネシアダンスを楽しんだ。

#### 4日目 5月22(日) グアムから高知へ

朝6時にホテルを出発してグアム空港へ。9:00発 DL172 便で関西空港へ。行き帰りとも機内は冷房が効きすぎており、貸与される毛布だけでは寒かった。セーターなどを準備すべきだった。

関空着は 11:55。12:20 発のリムジンバスに乗ると、伊丹空港へ 13:20 に到着した。私たちが乗る高知行きの ANA1615 便は 17:55 発である。

4 時間半も待ち時間があつたので、南ターミナル 2 階の国内線出発口にあるダイヤモンドサービスメンバー向けラウンジ「ANA SUITE LOUNGE」で時間を過ごした。

昨年の 11 月にオープンしたようである。羽田のラウンジは狭くて混雑しているが、ここはきれいでゆったりしていた。

18:30 予定より 10 分早く高知空港に到着。全員無事に帰ってきた。

#### あとがき

社員旅行で海外に行くと必ずトラブルがある。2013 年に台湾へ行ったときは、烏山頭ダムへ行く途中で社員 1 人がはぐれた。

今回は最後の夜に食事会場へ行く送迎バスに 2 人の社員が乗り遅れた。送迎バスに乗るのは我が社の社員だけではないので待ってくれない。今回の旅行の世話役を務めてくれた親睦会副会長の兵頭君を残して会場へ向かった。

ところが送迎バスが途中でエンジントラブルを起こし、危うくポリネシアショーが見られなくなるところだった。

会場に着くと、兵頭君たちがタクシーで既に到着しており、ホッとした。

旅行でのトラブルは避けたいものであるが、思い出として強く残るのはトラブルである。失敗経験をすることで知恵や度胸が身につく。トラブルを経験するのも悪くはない。

外国のホテルに泊まって感じることは、水回りの悪さである。今回のホテルも私の部屋だけでなく湯の出が悪かったようである。バスタブに湯を溜めるのに時間がかかった。熱い湯も出なかった。

往生したことは、部屋の上の階で改装工事をしていたことである。早めにホテルに帰って一休みしようにも工事の音がうるさくてゆっくりできなかった。

日本旅行高知支店課長代理の加田利弘氏には、添乗員として出発から帰るまで終始細かいところまで気を配っていただいた。

親睦会には社員の意見のとりまとめや旅行会社との連絡係などを務めていただいた。

参加した 34 名のメンバーは、第一コンサルタンの一員として規律と品格のある行動をとってくれた。

お陰様で全員が事故なく旅を楽しみ、お互いの絆を深めることができた。

皆様に心より感謝申し上げます。